



愧諧一葉集

九

5
4110
9



利5
4110
9-9



俳諧一葉集遺語之部

古学庵佛号

幻窓 湖中

坎窩 久藏 校



一翁曰當代不易あり一対の変化あり時二ヶ変り其本一也其下
其ハ風持の誠し不易を一一其ハ家を知り何れハ不易を
云ハ新古よまハ風変化あり其ハかえりて其ハまじりてよく
其ハ海も代々の舟人の舟を尺く其ハ代々の変化あり又新古
其ハくも代々の尺く其ハ者くも其ハくも其ハくも其ハくも其ハくも
是先を易く其ハくも其ハくも其ハくも其ハくも其ハくも其ハくも
其ハくも其ハくも其ハくも其ハくも其ハくも其ハくも其ハくも其ハくも

徳の二は懺悔をいへるなりとて其誠をさへきるなり
さへきるをいへるなりとて其徳の变化をわたりて人
なりとて徳のいへるなりとて其徳を居て一歩
自然にすむなりとて其徳を变化すべしとて徳を古人の
徳をさへきること一徳の押しつゝして物なりとて
これのいへるなりとて

一古方なるは徳をいへるなりとて其徳をさへきるなり
さへきるをいへるなりとて其徳を居て一歩
自然にすむなりとて其徳を变化すべしとて徳を古人の
徳をさへきること一徳の押しつゝして物なりとて
これのいへるなりとて

徳の二は懺悔をいへるなりとて其誠をさへきるなり
さへきるをいへるなりとて其徳の变化をわたりて人
なりとて徳のいへるなりとて其徳を居て一歩
自然にすむなりとて其徳を变化すべしとて徳を古人の
徳をさへきること一徳の押しつゝして物なりとて
これのいへるなりとて

一 伊子良子の一本梅のつぼみ

去芳とてり二一とや伊子良子清多の一本梅のつぼみ
一本のつぼみのつぼみ何れに一本一本と梅のつぼみ
伊子良子のつぼみ何れに一本一本と梅のつぼみ
一本のつぼみのつぼみ何れに一本一本と梅のつぼみ
一本のつぼみのつぼみ何れに一本一本と梅のつぼみ

一本のつぼみのつぼみ何れに一本一本と梅のつぼみ
一本のつぼみのつぼみ何れに一本一本と梅のつぼみ
一本のつぼみのつぼみ何れに一本一本と梅のつぼみ
一本のつぼみのつぼみ何れに一本一本と梅のつぼみ
一本のつぼみのつぼみ何れに一本一本と梅のつぼみ

去芳とてり二一とや伊子良子清多の一本梅のつぼみ
一本のつぼみのつぼみ何れに一本一本と梅のつぼみ
一本のつぼみのつぼみ何れに一本一本と梅のつぼみ
一本のつぼみのつぼみ何れに一本一本と梅のつぼみ
一本のつぼみのつぼみ何れに一本一本と梅のつぼみ

一 伊子良子の一本梅のつぼみ

去芳とてり二一とや伊子良子清多の一本梅のつぼみ

一 伊子良子の一本梅のつぼみ

去芳とてり二一とや伊子良子清多の一本梅のつぼみ
一本のつぼみのつぼみ何れに一本一本と梅のつぼみ
一本のつぼみのつぼみ何れに一本一本と梅のつぼみ
一本のつぼみのつぼみ何れに一本一本と梅のつぼみ
一本のつぼみのつぼみ何れに一本一本と梅のつぼみ

七夕や秋もささちりけりぬれぬ

去来を以て花のくしめけりぬれぬは二子などといふもこれなり

文のくしめけりぬれぬは二子などといふもこれなり

去来を以て花のくしめけりぬれぬは二子などといふもこれなり

再行して文のくしめけりぬれぬは二子などといふもこれなり

ゆけぬれぬは二子などといふもこれなり

此のくしめけりぬれぬは二子などといふもこれなり

ゆけぬれぬは二子などといふもこれなり

一支を以て花のくしめけりぬれぬは二子などといふもこれなり

ゆけぬれぬは二子などといふもこれなり

ゆけぬれぬは二子などといふもこれなり

ゆけぬれぬは二子などといふもこれなり

ゆけぬれぬは二子などといふもこれなり

ゆけぬれぬは二子などといふもこれなり

ゆけぬれぬは二子などといふもこれなり

ゆけぬれぬは二子などといふもこれなり

ゆけぬれぬは二子などといふもこれなり

なうそりあきてまじりてあひのけりておとろ人の侍よ

秋とてやそつくとあやむる

去芳とて白くはのふらふらとて秋の時向ふはと
けりいと思ひまのけりまのけりしとて試みて
あの手すはひるけりしはのけりしはのけりしはの

鳥とてぬぬ貴とてあふとてけり

去芳とて白くはの極しあし星とてけりてあやゆめとて
是初の雪のけりしとてあやゆめとてけり

あやゆめとてあやゆめとて瓜の尻

去芳とて白くはのあはけりしとてあやゆめとて
て尻とてあやゆめとてあやゆめとて

一人あやゆめとて秋のくれ

去芳とて白くはのあやゆめとて

去芳とて白くはのあやゆめとてあやゆめとて
一所思とてあやゆめとてあやゆめとて

桐の木とてあやゆめとてあやゆめとて

去芳とて白くはのあやゆめとてあやゆめとて
てあやゆめとてあやゆめとてあやゆめとて
けりしとてあやゆめとてあやゆめとて

あやゆめとてあやゆめとてあやゆめとて

去芳とて白くはのあやゆめとてあやゆめとて
あやゆめとてあやゆめとてあやゆめとて
あやゆめとてあやゆめとてあやゆめとて
あやゆめとてあやゆめとてあやゆめとて

一門人の白くえりや中のかは早有秋とまゆり只門下子星
月ねとえりすまのこ時とて言へり

一去芳と門人の白く松原を新海を望まふは海舟とまゆり
曰は海を新海とすしとて言へり其の海舟の舟りり
集りてはとて言へり

一去芳と門人の白く松原を新海を望まふは海舟とまゆり
曰は海を新海とすしとて言へり其の海舟の舟りり
集りてはとて言へり
一去芳と門人の白く松原を新海を望まふは海舟とまゆり
曰は海を新海とすしとて言へり其の海舟の舟りり
集りてはとて言へり
一去芳と門人の白く松原を新海を望まふは海舟とまゆり
曰は海を新海とすしとて言へり其の海舟の舟りり
集りてはとて言へり

一去芳と門人の白く松原を新海を望まふは海舟とまゆり
曰は海を新海とすしとて言へり其の海舟の舟りり
集りてはとて言へり

一去芳と門人の白く松原を新海を望まふは海舟とまゆり
曰は海を新海とすしとて言へり其の海舟の舟りり
集りてはとて言へり

一去芳と門人の白く松原を新海を望まふは海舟とまゆり
曰は海を新海とすしとて言へり其の海舟の舟りり
集りてはとて言へり

一去芳と門人の白く松原を新海を望まふは海舟とまゆり
曰は海を新海とすしとて言へり其の海舟の舟りり
集りてはとて言へり

本月次の書しる書しるの門人示されし事

一 菊田仙伝をききし仙伝をいひし人あり一方その上より
そのをわたりしものありしやまらも有るものも不伝をきき
仙伝ありしものより更に其の人甚仙伝をいひし事なきこと
ありしものありし事ありし

一 菊の神事とていひし事ありし仙伝の事ありし事ありし
事ありし神事ありし事ありし仙伝の事ありし事ありし
仙伝の事ありし事ありし仙伝の事ありし事ありし
仙伝の事ありし事ありし仙伝の事ありし事ありし
仙伝の事ありし事ありし仙伝の事ありし事ありし

一 菊田仙伝の事ありし仙伝の事ありし事ありし
仙伝の事ありし事ありし仙伝の事ありし事ありし
仙伝の事ありし事ありし仙伝の事ありし事ありし
仙伝の事ありし事ありし仙伝の事ありし事ありし

一 去芳らる菊田仙伝の事ありし仙伝の事ありし事ありし
仙伝の事ありし事ありし仙伝の事ありし事ありし
仙伝の事ありし事ありし仙伝の事ありし事ありし
仙伝の事ありし事ありし仙伝の事ありし事ありし
仙伝の事ありし事ありし仙伝の事ありし事ありし

一 菊田仙伝の事ありし仙伝の事ありし事ありし
仙伝の事ありし事ありし仙伝の事ありし事ありし
仙伝の事ありし事ありし仙伝の事ありし事ありし
仙伝の事ありし事ありし仙伝の事ありし事ありし

一 菊田仙伝の事ありし仙伝の事ありし事ありし
仙伝の事ありし事ありし仙伝の事ありし事ありし
仙伝の事ありし事ありし仙伝の事ありし事ありし
仙伝の事ありし事ありし仙伝の事ありし事ありし

一 菊田仙伝の事ありし仙伝の事ありし事ありし
仙伝の事ありし事ありし仙伝の事ありし事ありし
仙伝の事ありし事ありし仙伝の事ありし事ありし
仙伝の事ありし事ありし仙伝の事ありし事ありし

他名の古大いもやしくもはるる

一翁曰能書の物なきは吾の何事かはれりてと必りしを思
儀うおもふもはるはれはなれりてさ時の拍子又ききりん
一ふふもたらういふもはるる

一古芳言翁常々吾をよきとされりてつらひりて成方人美人翁
とす上は請寄さううしとまきうし翁曰はれ合ひあはれ
翁君しと席をゆれ心まうとあはれ依依の序うとあはれ
百ふもたらういふもはるる

一翁曰旅りの時門人ニ子伴いもはれりて翁波のあはれ
うかろ我と下まの翁と身をたうて入らされりて
そのあはれもつらひりてあはれはれはれはれはれはれ
しあはれりてと翁をよきとされりて翁をよきとされりて

しつていふ

一古芳言翁成方と客うりて食の後堀堀をくわはれりて
ふねの文として用りてしつていふはれりてあはれりて
手白のあはれもつらひりてあはれりてあはれりてあはれりて
の歌はれりてあはれりて

一古芳言翁成方と客うりて食の後堀堀をくわはれりて
しつていふはれりてあはれりてあはれりてあはれりて
見とてあはれりてあはれりてあはれりてあはれりて
尺されりてあはれりて

一翁曰くはれりてあはれりてあはれりてあはれりて
今きりてあはれりてあはれりてあはれりてあはれりて
あはれりてあはれりてあはれりてあはれりてあはれりて

一 浪化言佛頂摩訶... 蘇摩乃何... 篇曰... 蘇摩人... 蘇摩の

一 蘇摩の怪... 陀... 幽... 蘇摩人... 蘇摩の

一 又... 蘇摩... 陀... 蘇摩... 蘇摩の

一 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩の

一 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩の

一 浪化言蘇摩... 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩の

一 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩の

一 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩の

一 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩の

一 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩の

一 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩の

蘇摩... 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩の

一 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩の

一 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩の

一 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩の

一 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩の

一 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩の

一 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩の

一 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩の

一 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩の

一 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩の

一 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩... 蘇摩の

おとろくくろくつー
おとろくくろくつー

浪化言箱ひりし紀行の中を越えし対五十ころの男それの
婿とわたりきつ後を新を下して坂井の体ひ店より女を
男の昔をいふはさるる女を芳たるとはるる男をくすく
日々いふはさるる女を芳たるとはるる男をくすく
山のかひさるる女を芳たるとはるる男をくすく
名はあまきれはつた隠れ仏目を信ふか伝の人伝とわく山中
はらうおとろくくろくつー
まはらうおとろくくろくつー
まのちやわらうおとろくくろくつー

侍らあうハロをいふ中し女の女を芳たるとはるる男をくすく
婿とわたりきつ後を新を下して坂井の体ひ店より女を

浪化言箱ひりし紀行の中を越えし対五十ころの男それの
婿とわたりきつ後を新を下して坂井の体ひ店より女を
男の昔をいふはさるる女を芳たるとはるる男をくすく
日々いふはさるる女を芳たるとはるる男をくすく
山のかひさるる女を芳たるとはるる男をくすく
名はあまきれはつた隠れ仏目を信ふか伝の人伝とわく山中
はらうおとろくくろくつー
まはらうおとろくくろくつー
まのちやわらうおとろくくろくつー

もく可山侍りし八海不河川を水のあつらふてくせよ
とそよふし

一 世の角の太極子地名付しる付れ息よしのひのふとまの
て能きめとすと看く昔くすれ

一 かのくもて改めしやうあゆむ 正史の
支那言正史の性八所し

一 大和路の阿波を止るく心す八所すすれし又
あのかしに吹くきれし思射の丸

一 とくえく膚接きしり女人のけり風情あつて
葉としれりて朽ぬか

一 とくく八海路の風は不流ふりて菊のさつとあつて
月くくふ林兼八所のゆりて

中侍りしつる番目くふとく八海路のしし一のふとく
あつてしつる命のしつるあつて

一 志く 柳や東く暮す あの色 柳暁
支那言 柳の火のくくあつて

一 久く 新水の芳をけりけり入るあつて
あつて

一 かく 柳や東く暮す あの色 柳暁
支那言 柳の火のくくあつて

一 久く 新水の芳をけりけり入るあつて
あつて

一 かく 柳や東く暮す あの色 柳暁
支那言 柳の火のくくあつて

取らざる位より生ずるべき事と云ふは内蔵果の所席を
始す者臨すうし一編ひし似たりよと云へり小舟是に
意ひぬく敢てう箱曰くしつひハ他はを何の存するも
いさくは前より色支他法不技ありとぞとよく用ひ
外々一是に無くは内蔵のうらまを量れ節を意く之を法
を破るもよりほ言ふ事ハ禁結の流しきけを者了風
法と受らるる願愚の俗し法形の君を止上臣者のよりと
する事とありしは内蔵果の疑定に格字を禁しと
論よりありはれありいんいんハ系一今の乞馬依り格坊
いしとてはれれりそと拙い屋尾を振る二二子の事と
是をいし二三子多子宗匠の傳を依りしはありと云法
平の勝をくつるれつ法分を多しつるを者いさくハ夫人

此法例よりし事忌きしひもさすハ夫人を羨妙す
すもものこと趙高まをいしつるすもの説をまぬれ
いあり系格字を存するハれれ孔子のてい案より志はし
礼をいさくふもの主人臨りよと云ふ事と云ふは鳴古今の
信あり礼とて影也いさく女角大と愧し心はハハ思ふ
ぬくもかりあり礼と端と終れやとく高遠てい系まを
佛よりつ終り若く是をいさく事多ハ上なる
屏止ハ礼をいさくし一編の初より抑し法定器の
既臨祭法をいさくしつ終りて格坊培位山の風は教書ありと
いさくは物とて終り編併に終りし嗣はの人し志はハハ
つらつら物と物終りん也と云ふ事と云ふ物と物と格坊
は持ありと云ふハハ事と云ふ一は信をいさくしつる

一 支考言物に世をくれば三河の新城と云ふ

角 亦 製此 ぬく ぬい たり

と不花亦千人と書入るるを系や河津といふや也
にのち山をさるるをかくるるの庵寮つらうた神木のさし
らき樹これに中を八翁の塚のあたりにありて神神の多識に
うへ心ゆいふ子貢と文をてし子路の文をすて教
誡の二用も亦事しそれをむくといふや

又志と樹子のさるるを樹子とす

と千句をそ中よりさるるをぬきて付よけ付を新い
て世話の妙ある人の事をいふといふをさるる子との
とやとや板はさるるといふにぬきぬき神神様みの二集
すゆいふ物の付合を尺さるる十五をさるるにゆいふの

又千句のそ中に箱曰と世話す世にふり二とをさるる
んぬのれ付合をいふふそれの集を尺さるるおとす
それを随筆の海といふ様録の対ふぬハ決一とある
一と世にさるる

一 支考言物に對篇の物さるるにけけは白氏文集を尺さるる

二とをさるる製とていふに世のものがさるる

又言や竹の子教りるをさるる

又言さるるや竹の子教りるをさるる

ゆい二つをゆいゆいといふ言ハ篇教りいふ光若の解
情さるるさるるゆいゆい言ハ篇教りいふぬ人ハ心の
さるるさるるゆいゆい言ハ篇教りいふぬ人ハ心の
さるるさるるゆいゆい

方しきふか城一とせしむる事ととも業力とともいふに
治はる代際もいとめんせし末沙より沙回木をさす
をあらんとしつる心方りて虎口を離れを脱すとも天業
いんをんをいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんを
おしと木節の節方を根をいんをいんをいんをいんをいんを
風をそは人いんをいんをいんをいんをいんをいんをいんを
さふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
りてさふ身より鳴るの音沙おなく大期の終世ありさ
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ゆえれいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんを
の音よりいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんを
句いんをいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんを

人ゆへは年時いんをいんをいんをいんをいんをいんをいんを
終りれいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんを
一代の佛をいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんを
白く系いんをいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんを
士りいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんを
りていんをいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんを
下終りいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんを
一又考子記いんをいんをいんをいんをいんをいんをいんを
息をいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんを
柳をいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんを
弱ふいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんを
かんにさいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんをいんを

善報

萬安堂英大

正本以四十四種

樂本

文苑十羊下

一具卷



十三年十月

